肝疾患相談室記録システムの 有効性について

名古屋市立大学病院 肝疾患相談室 阿部信子

本日の内容

1. 記録システム開発までのながれ

2. 記録システム運用の実際

3. 記録システムの有効性

4.今後の課題

1. 記録システム開発までのながれ

記録システム開発までのながれ

2008年 4月 愛知県より「肝疾患診療連携拠点病院」指定 C型肝炎の医療費助成開始

6月 「肝疾患支援相談票」作成

7月 肝疾患相談室開設

2009年 9月 「L28B」遺伝子多型によるC型肝炎治療効果予測 (Nature Genetics 掲載)

2010年 4月 核酸アナログ製剤の医療費助成開始

6月 新聞取材

7月 「IL28B」遺伝子多型検査 先進医療認可

費用22,000円

8月 「肝疾患支援相談票」記録システム開発

肝疾患相談室



開設時に作成した「肝疾患支援相談票」

肝疾患支援相談票

センター長	副センター長	医事課長	医亊課	相談員

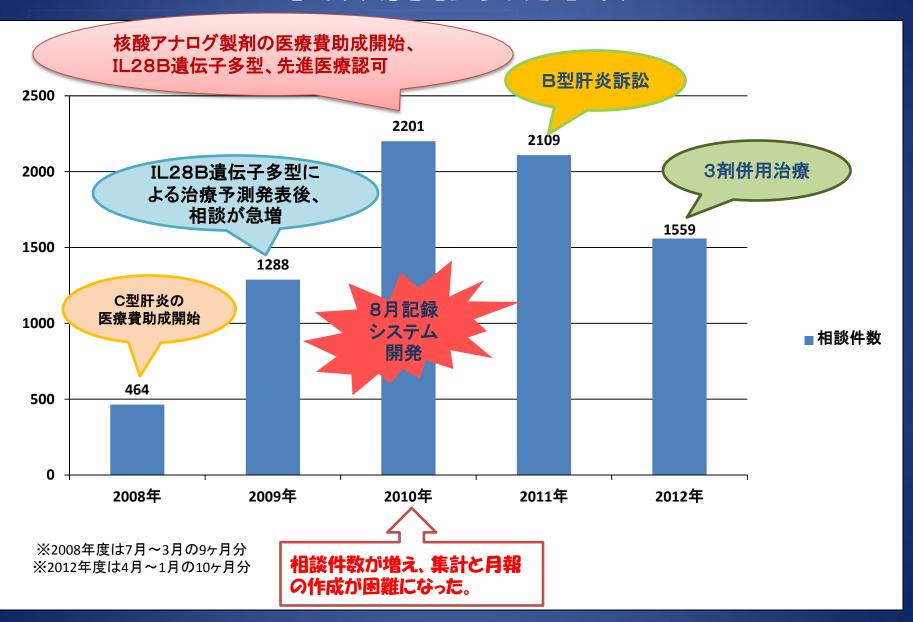
相談項目は、「都道府県 における診察後肝疾患 診療体制に関するガイド ライン」を参考

支援項目は業務量に 反映

1受付日	平成 年 月 日() 時 分~ 時 分相談時間 分 受付Ma
2 対応方法	1) 来訪 2) 電話
3.患者名	0)不明 1)氏名 様 ID () 2) 年齢 才 3)性別 男・女
4相談者のカテゴリー	0)不明 1) 本人 2) 家族() 3) 知人 4) 医療関係者 5) その他()
5 相談内容 1) 一般相談 2) 専門相談	□ (1)肝炎ウイルスの身体への影響 □ (2)検診受診の必要性 □ (3)治療の意義 □ (4)専門医療機関の紹介・県外) □ (5)日常生活上の智意点(飲酒、食生活、運動等) □ (6)感染予防 □ (7)定期的医療機関受診の必要性 □ (8)インターフェロン療法施行時の不安払拭
	□ (9)セカンドオピニオン受診案内 □ (10) 医療費についての相談 □ (11) 輸血・血液製剤の投与の有無 □ (12) 肝炎・肝がん □ (13)その他()
6治療状況	0)不明 1)診断なし 2)治療前 3)治療中 4)その他()
7利用回数	1) 初めて 2回目以上
8 受診状況	1) 当院 (入院・外来) 2)他院(入院・外来) 3)その他(不明・なし)
9支援内容	〈概 妻〉
1)接診受診の指律	
2) 治療内容の親別指律	
3) 等門医療機関の提供	
4) 生活措建	
5) IFN 治療への援助	(対応)
ち) 情報収集・提供	
7) 医療胎件の観明	
8)パンフレット等の提供	
9) 医療職関人の確認指導	
10)軒灸・軒がん複数	
11)その性()	
12) 患者進格	
TEL:	
 支援相談に関する感 想	 1) この相談室をどのように知りましたか (1)この病院の医療スタッフから説明を受けた (2)パンフレットをみた
125 	(3)家族・友人・知人から聞いた (4)インターネットで見つけた(5)その他()

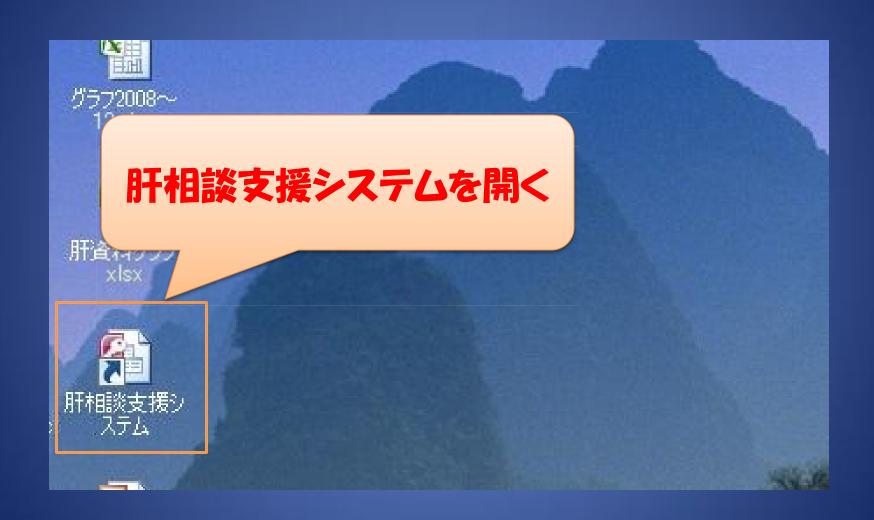
この相談票をもとに エクセルで集計、月報を 作成、医事課へ提出

年度別相談件数

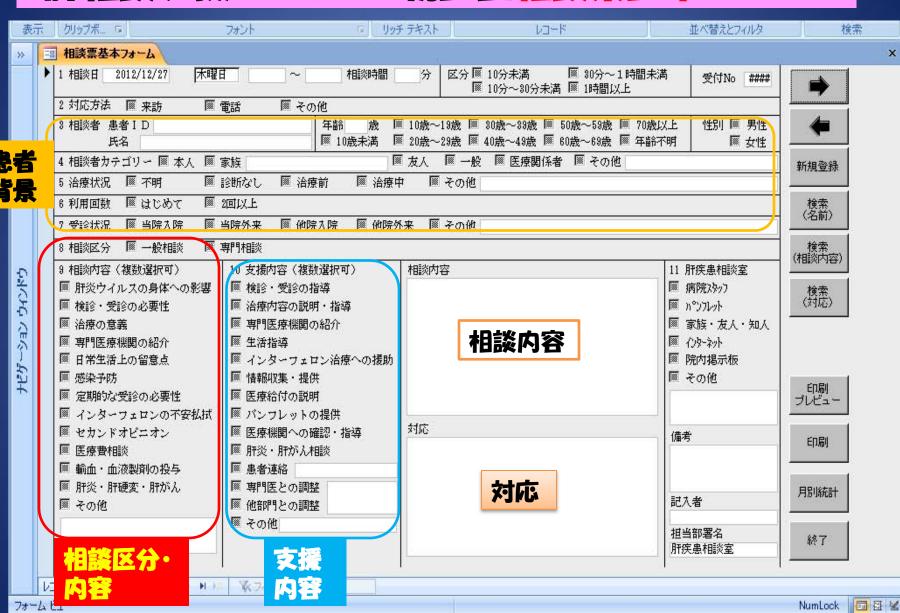


2. 記録システム運用の実際

肝相談支援システム

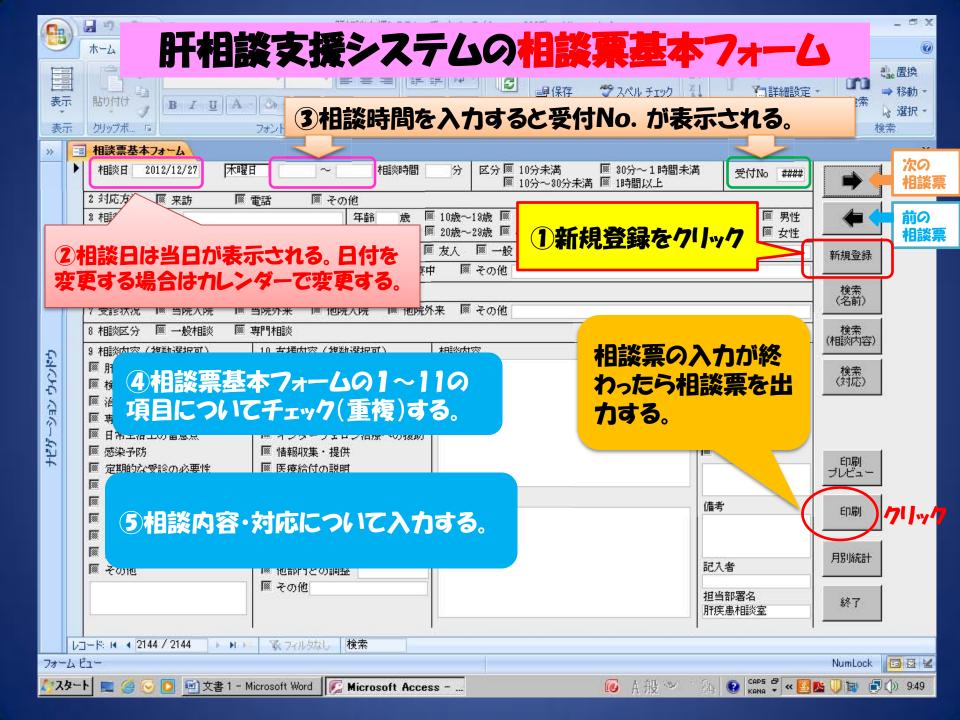


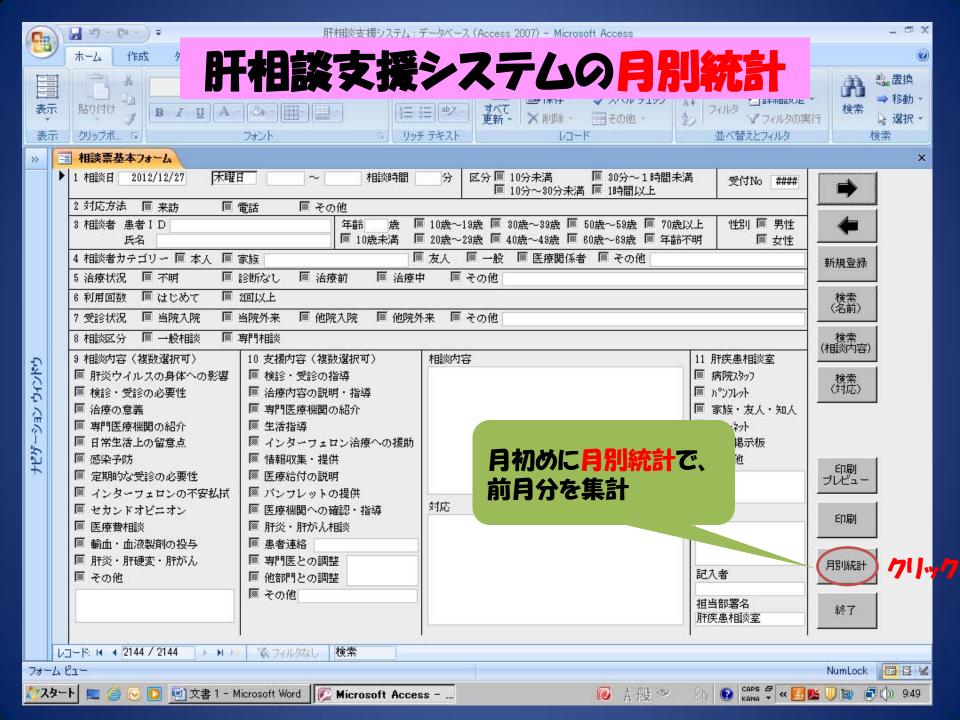
肝相談支援システムの初画面相談票基本フォーム

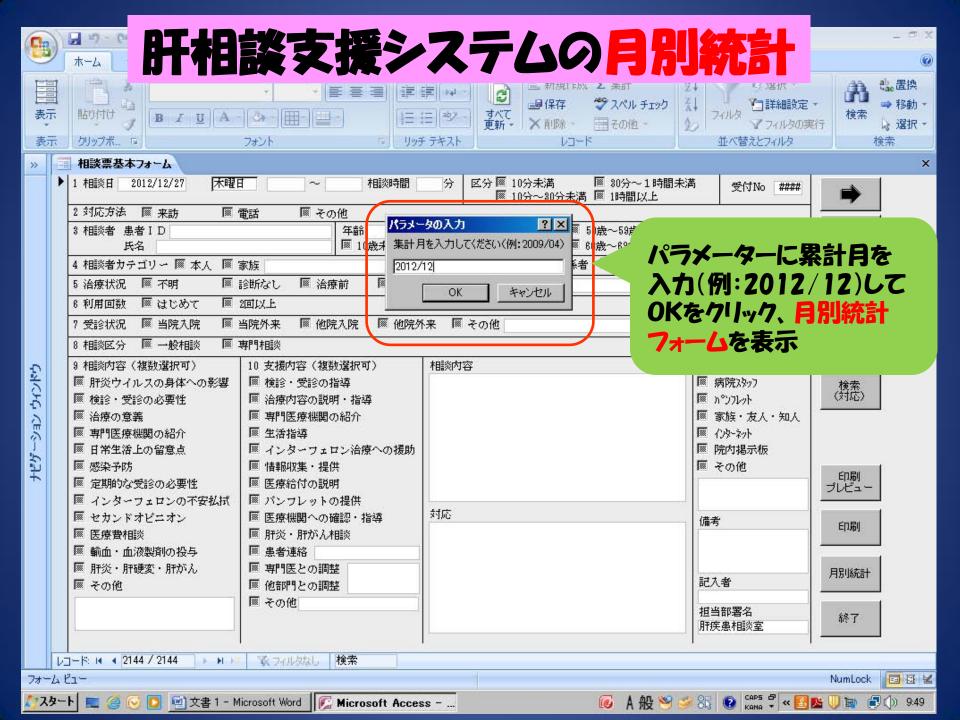


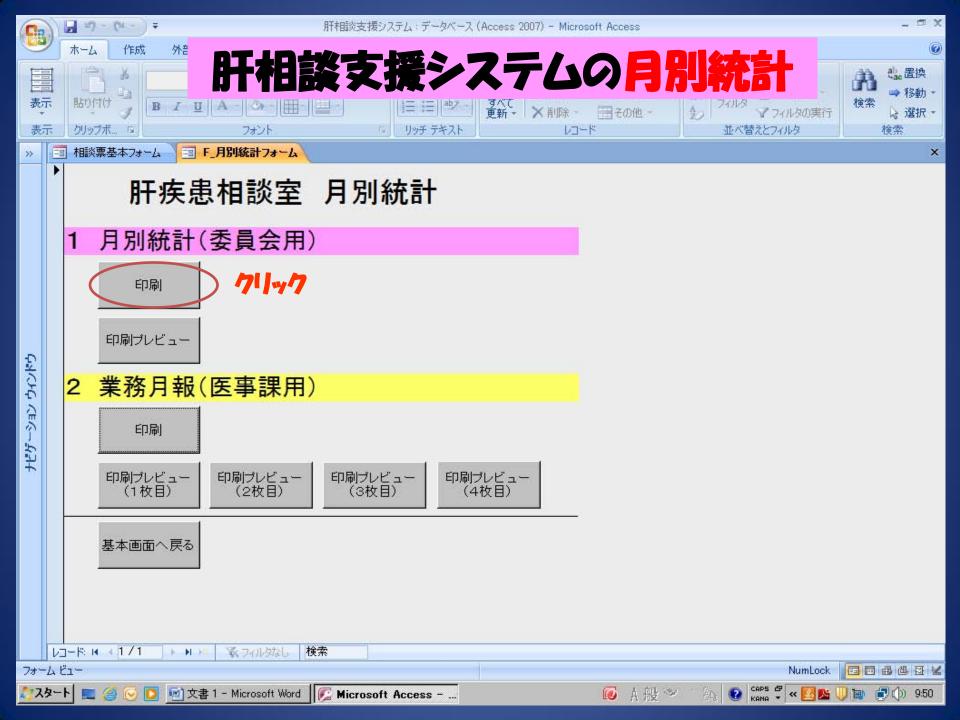
💌 🥝 🔽 🚺 文書 1 - Microsoft Word 🏻 📝 Microsoft Access - ...

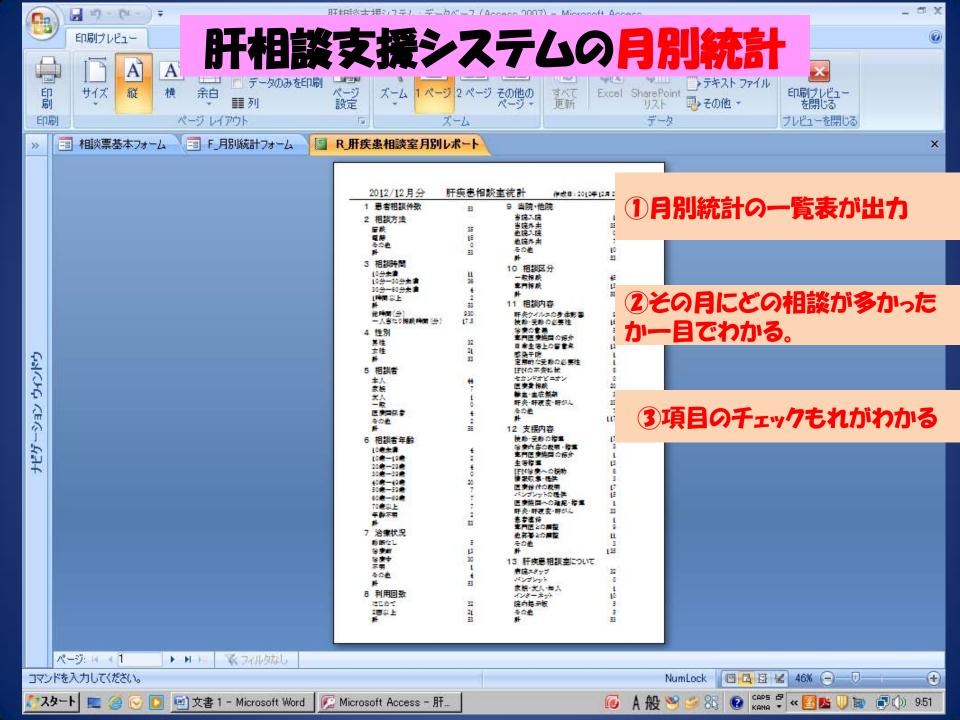
CAPS & « [] [] [] () 9:49

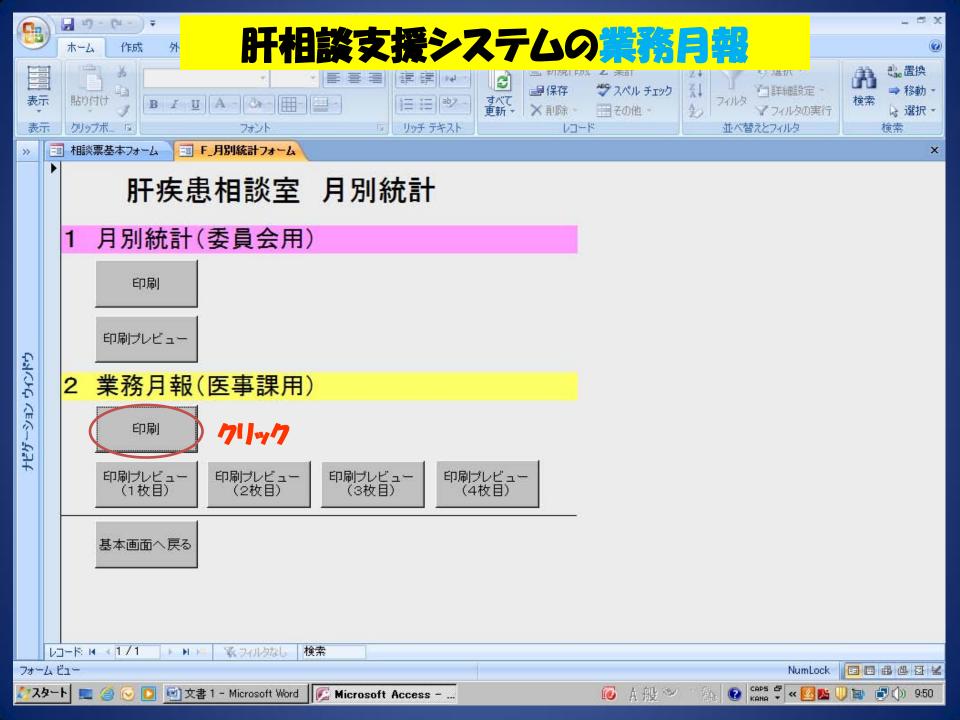


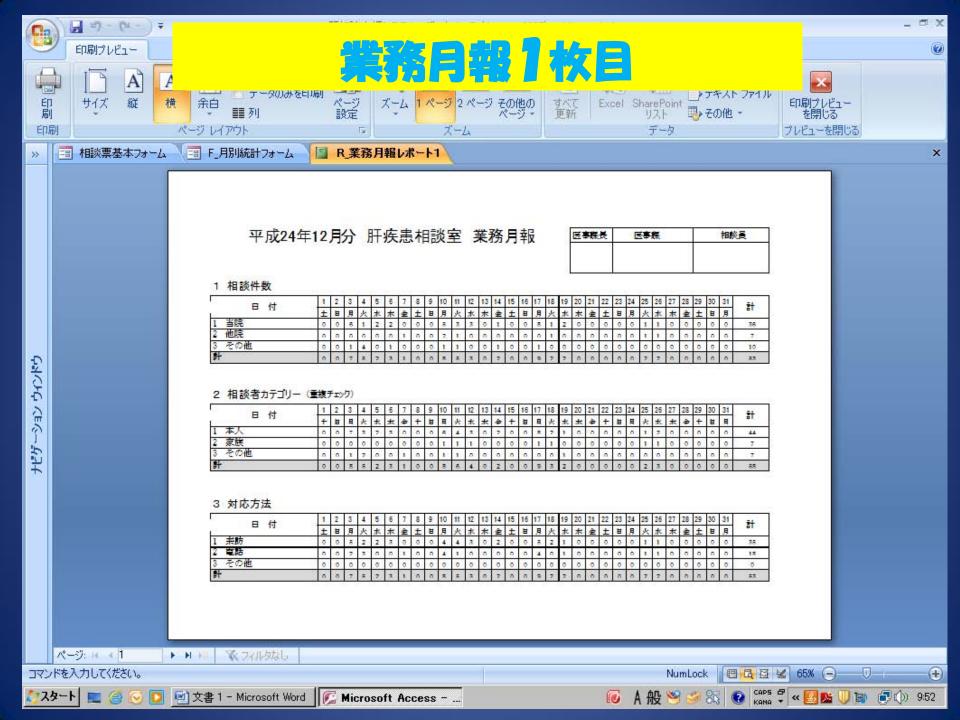


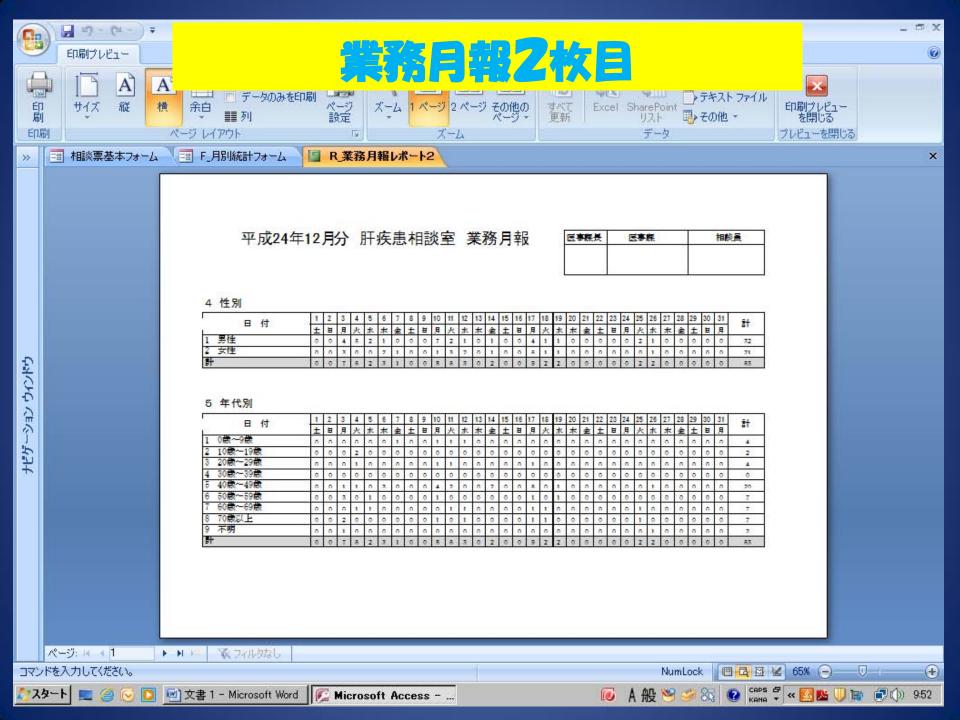


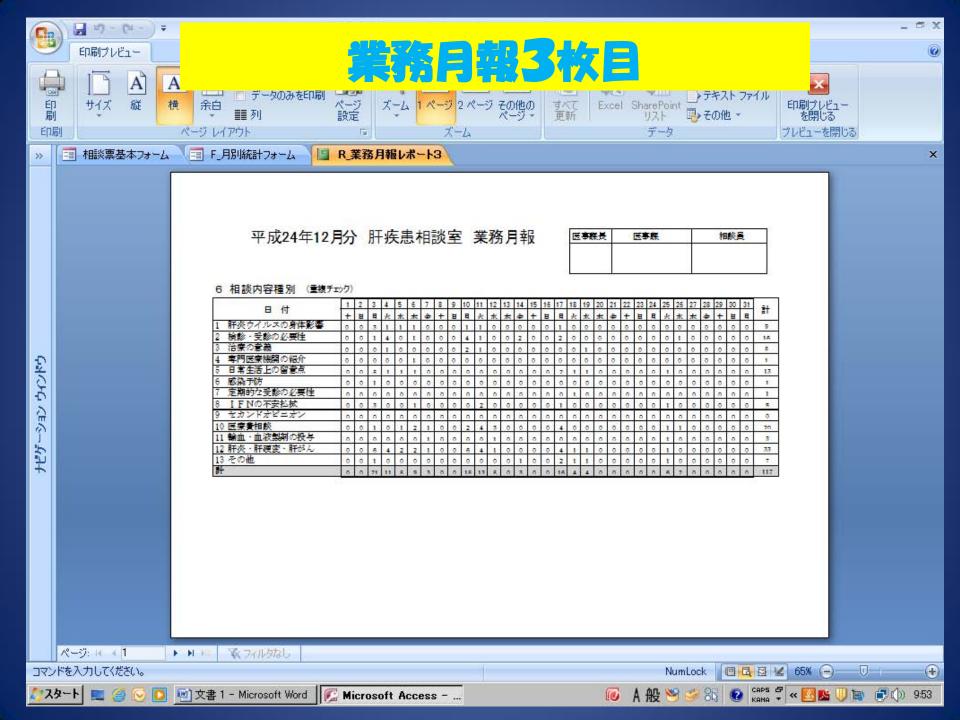


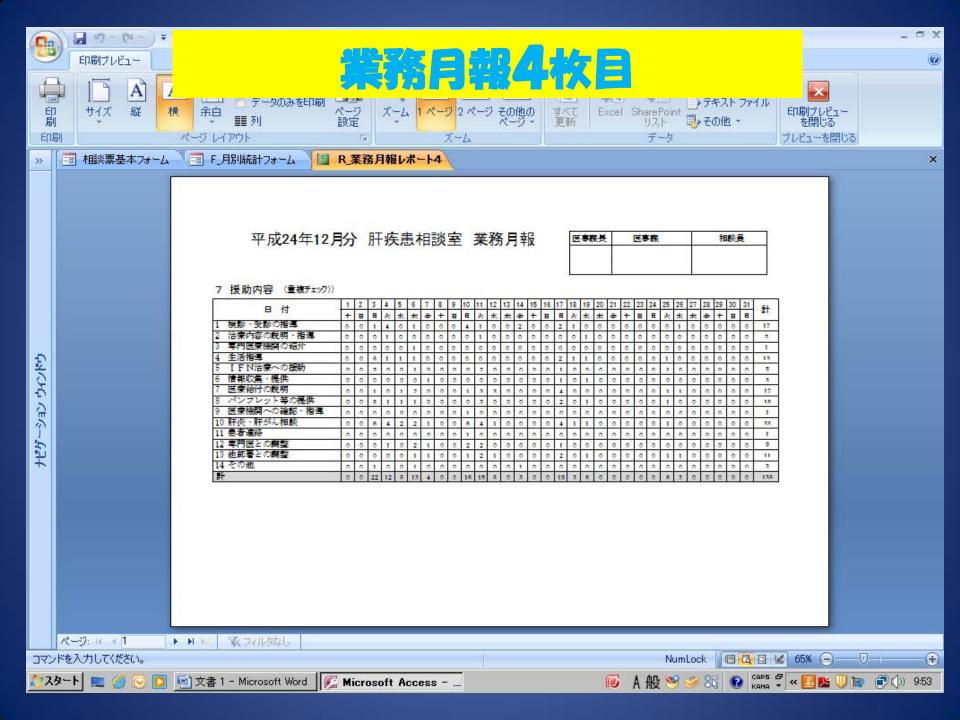


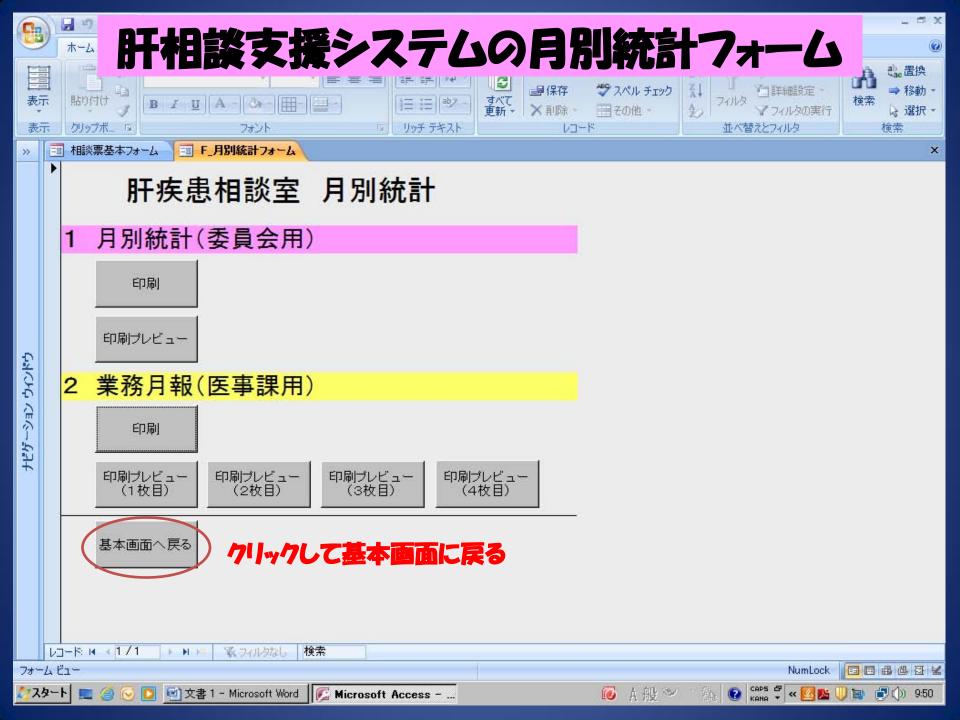












3. 記録システムの有効性

記録システムの有効性

- 1. 入力しやすい
- 2. 集計が容易
- 3. 統計処理も可能
- 4. 相談内容の傾向が見える→内容の準備 ができる
- 5. 情報の共有 →印刷して専門医による確認実施
- 6. 前回の相談内容の把握がしやすい

4. 今後の課題

今後の課題

1. 相談項目の見直し

2. システムの共有